

1113. 淡中先生 / Hauptgeschlechtssatz im  
Minimalen = ツイテノーツノ注意

松島 興三 (名大)

淡中先生ハ談話 1046 = 於テ次ノ興味アル定理ヲ  
証明シテ居ラレマス。スナハチ、 $f$  進数体  $k$  ノ  $n$  次、 $\alpha$  -  
 $\beta$  百拡大  $K/k$ ,  $K$  ノ Exponent が  $n = +l$  ヲナリテ  $l$  因子  
團  $(\alpha, \sigma, \tau)$  ヲトレバ、 $K$  ノ  $N_{K/k}(A) = 1$  ナル元  $A$  ハ  
 $l^{1-\lambda}$  ナル形ノ元ノイグツカト  $\alpha, \sigma, \tau / \alpha, \tau, \sigma$  ナル形ノ元イ  
グツカノ積トシテ表ハサレ、逆ニ成立ツトイフノデアリマ  
ス。

中山先生ハコノ定理ヲ談話 1092 = 於テ、興ハラ  
レタ因子團ト同伴ナ因子團デ、 $\frac{\alpha, \tau}{\beta, \sigma}$  ノ Norm が 1  
ニナル $\alpha$   $\beta$  ナモノヲイグツカトツテ来レバ 一般ノ $\beta$   $\alpha$   
 $\alpha$  拡大 = 於テモ、上ノ定理が成リ立ツコトヲ証明サレ  
マシタ。

↑ コノデハ、淡中先生ノ定理ヲツカヘバ、 $\alpha$  -  $\beta$  百拡大ノ  
場合 = 於テ、Hilbert ノ定理ノ逆 = 相當スルコトガ 簡單  
ニ証明サレルコトヲ注意シテイト思ヒマス。即チ

トヲ $\alpha$  - 進数体トシ、ソノ  $\alpha$  -  $\beta$  百拡大  $K/k$  ヲトレバ。  
 $K$  ノ  $N_{K/k}(A) = 1$  ナル元  $A$  が常ニ  $l^{1-\lambda}$  ナル形ノ元ノ  
積トシテ、表ハサレルナラバ、 $K/k$  ハ *zyklisch* = ナル。  
トイフコトガ言ヘマス。

$K/k$  がアーベル拡大と假定シテモ、中山先生ノ擴張#レタ形ノ定理ヲツカフテ  $K/k$  が *zyklisch* = ナルコトガ言ヘルカドウカハ、マカ余ヲナイノデアリマスガ、御教示ヲ伺タイト存ジマス。

以下、上ノコトノ証明ヲノベマス。

$K/k$  ヲリ次数ノ低イ  $\mathbb{Q}$  = ツイテハ成リ立ツトシテ、  
 $K/k$  が *zyklisch* = ナルコトヲ言ヒマス。

$K/k$  ノ次数ヲ  $n$ ,  $\forall$  Galois 群ヲ  $G$  トスル。

1)  $n$  が、少クトモニツノ相異ナル素数デアル場合。

簡單ノタメ  $n = p_1^{a_1} p_2^{a_2}$  トシ、 $G = G_1 \times G_2$ ,  $G_i$  Order  $p_i^{a_i}$  ( $i=1,2$ ) トシ、 $G_1$  = 對應スル  $K$  ノ部分体ヲ  $K_1$ ,  $G_2$  = 對應スルモノヲ  $K_2$  トスル。 $(a_{\sigma, \tau})$  ヲ  $K =$  於ケル Exponent が  $n$  ノ因子トスルハ  
*Chevalley* = ヲリ  $N_{K/K_1}(a_{\sigma_1, \tau_1})$  ( $\sigma_1, \tau_1 \in G_1$ ) が  
 $K_1 =$  於ケル Exponent が  $p_1^{a_1}$  ノ因子トスルハ 假定  
 = ヲリ、 $\frac{a_{\sigma_1, \tau_1}}{a_{\tau_1, \sigma_1}} \in b^{1-\lambda}$  ( $\lambda \in G_1, b \in K$ ) ナル形ノ元ノ

積 = ナツテキルカラ

$$N_{K/K_1} \left( \frac{a_{\sigma_1, \tau_1}}{a_{\tau_1, \sigma_1}} \right) \in b^{1-\lambda} \quad (b \in K_1, \lambda \in G_1)$$

此ノ元ノ積 = ナルカラ、淡中先生ノ定理ニヨリ、 $K/k$  ツイテ、定理ノ假定ガ満サレルコトガワカリ、従ツテ

induction / 假定カラ、 $K_1/k$  が zyklisch, 同様  
 $= K_2/k \in \text{zyklisch} \Rightarrow +\vee$ .  $K_1/k$  と  $K_2/k$  の次  
 数が互素カラ  $K/k \in \text{zyklisch} = +\vee$ .

2)  $n = p^2 + 1$  場合.

$\sigma_f = \sigma_{f_1} \times \sigma_{f_2} \times \dots \times \sigma_{f_s}$ ;  $\sigma_{f_i}$  は zyklisch とス  
 レバ、今と全様ニシテ、 $\sigma_f / \sigma_{f_i}$  は zyklisch = +ルコ  
 ト可言ヘルカラ、 $S \leq 2$  テ +ケレバ +ラ +イ、今  $S = 2$   
 テアルトスル。

$$\sigma_f = \sigma_{f_1} \times \sigma_{f_2}, \quad \sigma_{f_i} = (\sigma_i),$$

$$\sigma_{f_i} \text{ の Order } \neq p^{a_i} \quad (i = 1, 2)$$

トスル。

$(a_{\sigma_i, \tau})$  の Exponent カル / 因子團 トスレバ 假

定  $\exists$   $\parallel$   $\frac{a_{\sigma_1, \tau}}{a_{\tau, \sigma_1}}$  は  $b^{1-\lambda}$  +ル形ノ元ノ積 = +ルカ  $b^{1-\sigma_1}$

$b^{1-\sigma_2}$  +ル形ノ元ノ積ト考ヘテヨイコトハ明ラカデア

ル。今

$$\frac{a_{\sigma_1, \sigma_2}}{a_{\sigma_2, \sigma_1}} = \frac{C_{\sigma_1}}{C_{\sigma_1}^{\sigma_2}} \cdot \frac{C_{\sigma_2}^{\sigma_1}}{C_{\sigma_2}}$$

トカケテキルトスル。

因子團  $(a_{\sigma_i, \tau}) =$  對應スル  $(a_{\sigma_i, \tau}, K, \sigma_f)$  /

Transformer  $\neq \{U_\sigma\}$  トシ、 $U_{\sigma_1}, C_{\sigma_1}, U_{\sigma_2}, C_{\sigma_2}$

ヲ考ヘレバ、

$$U_{\sigma_1} C_{\sigma_1} \cdot U_{\sigma_2} C_{\sigma_2} = U_{\sigma_1 \sigma_2} a_{\sigma_1, \sigma_2} C_{\sigma_1}^{\sigma_2} C_{\sigma_2}$$

$$= U_{\sigma_2 \sigma_1} a_{\sigma_1, \sigma_2} C_{\sigma_1}^{\sigma_2} C_{\sigma_2}$$

$$= U_{\sigma_2} U_{\sigma_1} \frac{a_{\sigma_1, \sigma_2}}{a_{\sigma_2, \sigma_1}} C_{\sigma_1}^{\sigma_2} C_{\sigma_2}$$

$$= U_{\sigma_2} C_{\sigma_2} U_{\sigma_1} C_{\sigma_1} \frac{a_{\sigma_1, \sigma_2}}{a_{\sigma_2, \sigma_1}} \frac{C_{\sigma_1}^{\sigma_2}}{C_{\sigma_1}} \frac{C_{\sigma_2}}{C_{\sigma_2}^{\sigma_1}}$$

$$= U_{\sigma_2} C_{\sigma_2} \cdot U_{\sigma_1} C_{\sigma_1}$$

同様にして

$$V_{\sigma_1} = U_{\sigma_1} C_{\sigma_1}, \quad V_{\sigma_2} = U_{\sigma_2} C_{\sigma_2},$$

$\sigma = \sigma_1^{\alpha_1} \sigma_2^{\alpha_2}$  のとき,  $V_{\sigma} = V_{\sigma_1}^{\alpha_1} V_{\sigma_2}^{\alpha_2}$  とおける,

Transformer  $\{V\} =$  対応する因子圏  $(b_{\sigma, \tau})$

は  $(a_{\sigma, \tau})$  と同値である.

$$b_{\sigma, \tau} = b_{\tau, \sigma}$$

上の条件をみたす.

よって,  $b_{\sigma, \tau} \in K$  である. 何となく

$$b_{\rho, \sigma \tau} b_{\sigma, \tau} = b_{\rho, \sigma} b_{\rho, \tau}$$

$$b_{\tau, \rho \sigma} b_{\rho, \sigma} = b_{\tau, \rho} b_{\tau, \sigma}$$

$$b_{\rho \tau, \sigma} b_{\rho, \tau} = b_{\rho, \sigma} b_{\tau, \sigma}$$

1. 3つを掛け合わせると, 上の条件をみたす,  $b_{\rho, \sigma} = b_{\sigma, \rho}$

が導かれるのである.

よって

$$(a_{\sigma, \tau}, K, \sigma) = (b_{\sigma, \tau}, K, \sigma)$$

$$= (\alpha_1, K_1, \sigma_1) \times (\alpha_2, K_2, \sigma_2)$$

(但し  $K_1$  は  $\sigma_2$  = 対応する体,  $K_2$  は  $\sigma_1$  = 対応する体)

トハ解出來テ, コレハ  $(\alpha_{\sigma, \tau})$ , Exponent が  $n +$

ルコト = 反スル。

故 =  $\sigma$  は zyklisch であるレバトイ。